

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春里中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	市学習状況調査の結果を踏まえると、学年ごとに課題が異なり、対策を取る必要が出てくる。中1では、国語、中2では、国語、数学が課題に挙げられる。また、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」の活用を推進したが、定期的に使用することができなかった。使用の方法をもう一度確認し、使う時間を決めてやらせることで改善につなげていく。
思考・判断・表現	日々の授業において、生徒の活動量が実感として増えたことがわかるが、市学習状況調査によると思考・判断・表現の観点において課題が見られる教科があることがわかった。特に、数学と理科においては、市平均を大きく下回っており、課題である。引き続き、各教科において、話し合い活動の充実をはかり、生徒が主体となって考える場面を増やしていく。また、校内研修を通して、思考・判断・表現の観点を身に付けさせる授業研究を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	自校の中では、将来へのつながりを意識する生徒が増え、家庭で計画的に学習に取り組む生徒が増えているが、計画性については、学校全体だと市平均を大きく下回っている。生活記録であるスタディ・ライフによって、日々の計画力は身につけているが、それを実行する手立てが必要である。家庭学習を習慣化するように明確な宿題の提示や指示を行って改善していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の数学・理科において、さいたま市平均を上回る。	⇒ ・「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、基本的な計算等の反復に取り組むことにより「個別最適な学び」を推進する。 ・学校独自生活記録「STUDY LIFE」を活用し、生徒の学習習慣の定着を図る。
思考・判断・表現	よい授業アンケートの因子4(児童生徒の活動)の項目を、年度内調査において向上させる。	⇒ ・校内研修を実施し、教職員の授業改善を図り、思考力が高まる意見交換の場を設定する授業を展開する。 ・各教科の授業内において、ムーブノートやオクリンク等を使用しながら「学びの探究化」を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度学校評価アンケート「あなたは、自ら考え夢を持って行動していますか。」の項目の肯定的意見を、R4年度学校評価アンケートの結果より向上させる。	⇒ ・定期テスト前に学習会や質問会を設け、学習スペースによる自主学習を促す。 ・家庭学習において、スタディサプリやドリルパークの活用を促す。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	数学・理科において市平均を上回ることを目標としていたが、学校平均をみると、数学・理科はやや下回る結果となった。ただし、1年生の社会は市平均を大きく上回る結果が出ている。	C
思考・判断・表現	よい授業アンケートの因子4(児童生徒の活動)の各項目における本校職員の平均値を、年度内調査において向上させることが目標だったが、1回目と2回目の結果を比較したところ上昇が見られた。	B
主体的に学習に取り組む態度	学校評価の「あなたは、自ら考え夢を持って行動していますか。」における肯定的意見の、令和4年度と令和5年度における同一集団経年変化を比較すると64%から68%へと4%の数値の上昇が見られた。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語の「文脈に即して正しく書くことができるかどうかをみる」問題において課題がみられた。漢字を学習する際、意味を理解せずに覚えていることが考えられる。数学の「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる」問題において、全国平均を6上回る結果となっている。小テスト等で繰り返し粘り強く問題に取り組んでいることが要因の一つだと考えられる。
思考・判断・表現	英語の「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」問題において課題がみられた。全国平均を6ポイント上回る結果となっているが、無解答率が23%と高いことから、文章の組み立て方を理解していないため、書き始めることができないことが原因の一つだと考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の質問項目の、肯定的な回答の割合は59%と全国平均を上回る結果となっている。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	さいたま市の平均と比べると、社会はやや上回ったが、数学、理科はやや下回り、国語は大きく下回る結果となった。国語は、全体的に市平均を下回っているため改善が必要だが、特に我が国の言語文化に関する事項に課題が見られた。社会は、世界と日本の地域構成において課題が見られた。数学は、図形に関する単元で課題が見られた。理科は、「粒子」を柱とする領域において課題が見られた。
中2	さいたま市の平均と比べると、国語、数学、理科、社会すべての教科で市平均をやや下回る結果となった。国語は、全体的に市平均を下回っているため改善が必要だが、特に我が国の言語文化に関する事項、書くことに関する事項に課題が見られた。社会は、日本の様々な地域において課題が見られた。数学は、関数に関する単元で課題が見られた。理科は、「生命」を柱とする領域において課題が見られた。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は87%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は80%であった。どちらも二年生の時よりも高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし